

公共事業継続箇所評価調査

(様式5)

評価確定日(令和5年9月29日)

事業コード	R5-建-継-17	区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	広域河川改修事業	部局課室名	建設部河川砂防課
事業種別	河川改修	班 名	河川・ダム・海岸チーム(tel)018-860-2514
路線名等	一級河川 芋川	担当課長名	河川砂防課長 木次谷 英成
箇所名	由利本荘市大内	担当者名	チームリーダー 玉尾 毅
プランとの 関連	戦 略	防災減災・交通基盤	
	目指す姿	強靱な県土の実現と防災力の強化	
	施策の方向性	頻発化・激甚化する水災害に備えた流域治水対策の推進	

1. 事業の概要

事業期間	H1~R13(43年)	総事業費	490.0億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	計画延長L=16,550m、計画高水流量Q=560~690m <sup>3</sup> /s(1/10)					
事業の立案 に至る背景	芋川は蛇行を激しく繰り返す原始河川の様相を呈しており、川幅が狭く断面が小さいことから頻繁に沿川地域で浸水被害が繰り返されている。このため河川断面の確保や湾曲河道の是正のため、抜本的な河川改修を平成元年より実施している。					
事業目的	河川改修による河川断面の確保や湾曲河道の是正により、洪水被害が軽減されることとなり、沿川地域の保全が図られる。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		前回評価	今回評価	増減	理由等	
	事業費	49,000,000	49,000,000	0		
	経費内訳	工事費	32,750,000	32,750,000	0	
		用補費	15,900,000	15,900,000	0	
		その他	350,000	350,000	0	
	財源内訳	国庫補助	24,500,000	24,500,000	0	
		県債	22,050,000	22,050,000	0	
その他 一般財源		2,450,000	2,450,000	0		
事業内容	築堤、護岸、樋管、橋梁等	築堤、護岸、樋管、橋梁等				
事業の進捗 状況	全体計画 490.0億円 令和4年度末投資額 439.0億円 進捗率 89.6%					
事業推進上の 課題	県全体の予算制約によって事業進捗が影響を受けているほか、用地取得・補償にも期間を要している。					
関連する計画等	新秋田元気創造プランにおいて、県が継続的に取り組むべき基本政策「防災減災・交通基盤」の施策の方向性③の「頻発化・激甚化する水災害の備えた流域治水対策の推進」に位置付けられている。					
情勢の変化 及び長期継続の理由	平成14年度までに災害復旧助成事業及び河川災害復旧等関連緊急事業により下流9.9km区間が完成している。上流の未改修区域は依然として浸水被害が多発しており、平成29年7月の豪雨では49戸の浸水被害が発生するなど、引き続き築堤等の整備促進を図る必要がある。					
事業効果把握の 手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川改修済み延長 / 要改修延長				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目標値 a	46.6%(R4末目標)	データ等の出典	河川砂防課調べ		
	実績値 b	46.7%(R4末実績)	把握の時期	令和5年3月		
	達成率 b/a	100.2%				

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	下流区間は河川改修が完了しているが、上流の未改修区間では多くの家屋や国道105号などが保全対象となっており、引き続き整備を進めていく必要性が高い。	30点
緊 急 性	上流の未改修区間は現況流下能力が低く、豪雨の度に浸水被害が発生している。また、当該区域は重要水防区域に位置付けられていることから、緊急性は高い。	8点
有 効 性	改修が完了した地域では、災害防止効果が発現されている。	15点
効 率 性	事業の費用便益比は2.44であり、効率性は高い。また、発生残土の有効利用などによるコスト削減など効率的な事業計画としている。	15点
熟 度	平成29年7月の豪雨災害をはじめ、浸水被害が多発しており由利本荘市及び地元からの河川改修に対する要望が強い。また、環境調査の実施や計画に関して、地域との調整の結果を可能な限り反映している。	25点
判 定	ランク ( ●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ )	93点
	地元からの要望が強く、「必要性」「有効性」「効率性」等から、事業の重要性は高く評価できるため、整備を継続し早期完成を目指すべき。	
総 合 評 価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止	
	事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト削減に努めながら、事業を継続する。
----------------------

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。
--------------

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 河川改修事業

事業コード (R5-建-継-17)  
箇所名 (一級河川 芋川 由利本荘市内)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	想定氾濫区域内の状況					
	浸水戸数	50戸以上	10	10	639戸	
		10戸以上49戸以下	7			
		9戸以下	3			
	浸水面積	60ha以上	10	10	287ha	
		10ha以上60ha未満	7			
		10ha未満	3			
	重要な公共施設	3施設以上	5	5	国道105号、JR、由利本荘市大内総合支所、由利組合病院、岩谷小学校	
		1施設以上	3			
		なし	0			
	整備計画の策定					
関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み	5	5	H27.7		
	協議中であるが特段問題ない	3				
	策定に着手していないが予定がある	1				
	予定なし	0				
計			30	30		
緊急性	災害発生の危険度					
	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	5	66% (現況370/計画560=0.66)	
		40%以上60%未満	7			
		60%以上	5			
	秋田県水防計画					
重要水防地域	評定基準区分A	5	3	R5水防計画書より区分B		
	評定基準区分B	3				
計			15	8		
有効性	河川整備の有効性					
	安全度	災害防止等効果が発現する	7	7		
		災害防止効果は現状と変わらない	0			
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	緑化に配慮した護岸 高水敷整備	
		親水性は現状と変わらない	0			
	地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	3	都市計画区域あり	
地域開発の計画がある		1				
予定なし		0				
計			15	15		
効率性	事業の投資効果					
	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	2.44	
		1.0未満	0			
	事業実施コストの縮減					
	該当項目数	3項目以上	5	5	再生骨材の使用 建設副産物の発生抑制 排水樋管の統廃合	
		2項目	3			
		1項目	1			
		なし	0			
前回計画との比較						
前回計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	5			
	10%以上30%未満の増加	3				
	30%以上の増加	0				
計			15	15		
熟度	地元の状況					
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5		
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3			
		意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1			
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある	5	5	要望所R5.6 由利本荘市	
		参画している	3			
		参画していない	0			
	事業の進捗状況					
	進捗率 (事業費)	8割以上完了	10	10	(R4末)439/(計画)490 =89.6%	
		5割以上完了	8			
		1割以上完了	5			
1割未満		2				
環境との調和への配慮状況						
環境保全への配慮 (秋田県公共事業環境配慮システムでの環境配慮事項)	3事項以上	5	5	湾曲部や瀬、瀬及び樹木の保全 排出ガス対策型車両や機械の採用、 生態系に配慮した護岸工の実施		
	1事項以上	3				
	環境配慮事項がない	0				
計			25	25		
合計			100	93		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		